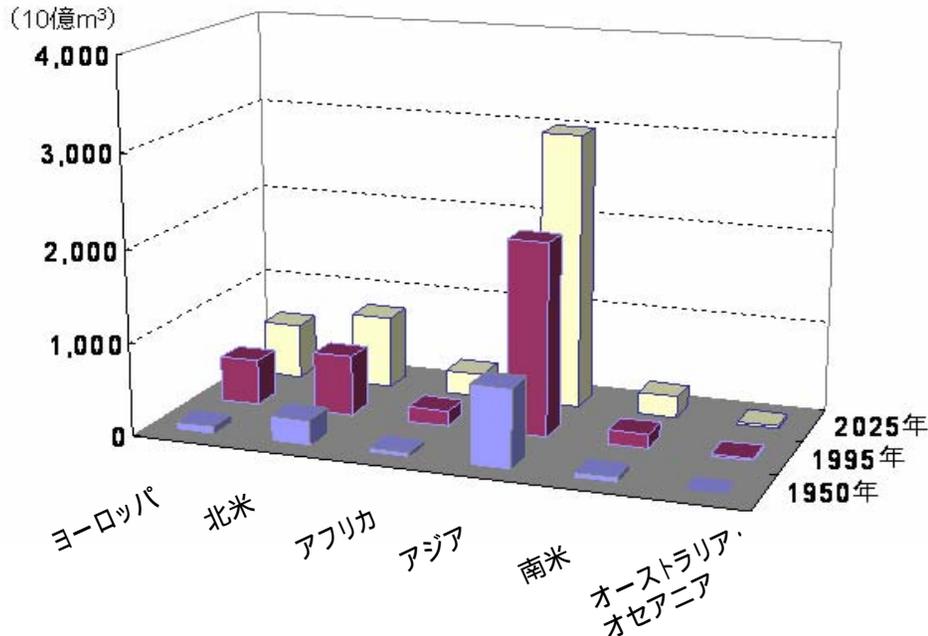


世界の水問題の解決に向けた国際的取組(その1)

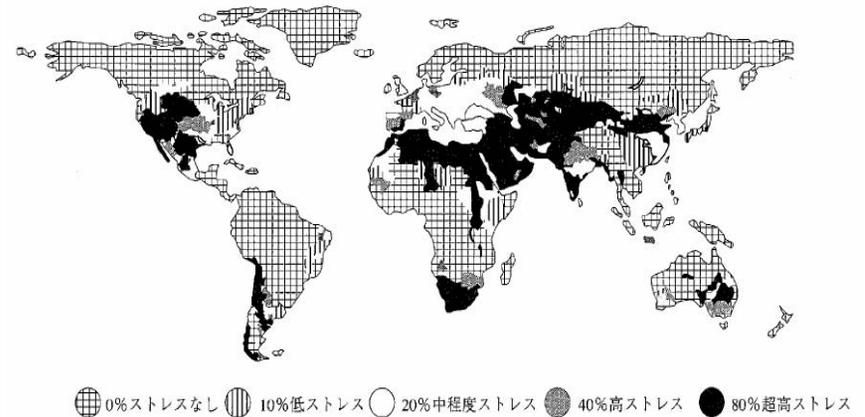
- 1950年から1995年までの45年間で、世界の水消費量は約2.6倍に増加しています。
- アフリカ、アジア、ラテンアメリカの大半を含めた世界の60%以上の地域で取水量の増加が予想されています。2025年までに約40億人が高い水ストレスを被るなど、より深刻な水危機の到来が懸念されます。

世界の地域別水使用量と水需要量の将来見通し



出典: Assessment of Water Resources and Water Availability in the World, WMOより作成

現状維持シナリオにおける2025年の世界の水ストレス



水ストレスは一般に一人あたりの利用可能な水資源が、 $1,700\text{m}^3$ (人が生活するにあたり必要な水需要とされる)を下回る地域に居住する人口を指すが、ここでは再生可能資源の40%以上を人間活動のために利用する必要がある地域と定義している。

出典: 世界水会議(2000)「世界水ビジョン」をもとにした農林水産省資料

世界の水問題の解決に向けた国際的取組(その2)

世界水フォーラム

世界の重大な水問題を討議するために、World Water Council(WWC:世界水会議)が主催する会議。3年に一度、3月22日の「世界水の日」を含む時期に開催。

日本は、2003年に第3回世界水フォーラム(於:滋賀、京都、大阪)を主催するなど、水に関する国際的および地域的取組・協力に主導的役割を果たしてきた。(第3回世界水フォーラム事務局名誉総裁:皇太子殿下、会長:橋本元総理)

第4回は2006年3月に「地球規模の課題のための地域行動」をテーマとしてメキシコで開催。



第4回世界水フォーラム

第1回アジア・太平洋水サミット

2007年12月3日(月)、4日(火)に大分県(別府市)で開催予定。森喜朗元総理が会長を務める非営利ネットワーク組織の「アジア・太平洋水フォーラム」が主催。

アジア・太平洋地域47ヶ国において、各国政府首脳級及び国際機関代表等を含めたハイレベルが、世界の水問題の解決やアジア地域における国連ミレニアム開発目標等の達成を目的として、水に関して幅広い意見交換を行う。

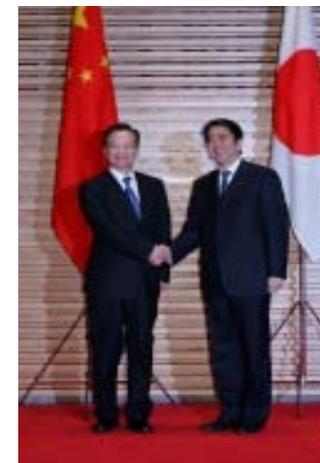
具体的な課題として、水インフラと人材育成、災害管理及び発展と生態系のための水の3つを取り上げる。



会場予定地(大分県別府市)

日中環境協力共同宣言

2007年4月日中首脳による会談において、「飲料水源地保護を強化し、河川・湖沼・海洋・地下水の汚染を防止し、特に渤海・黄海区域及び長江流域などの重要水域における水質汚濁防止について協力を実施する」ことで一致。



日中首脳会談

人と自然が元気な郷づくり（その1）



里地里山が多様な生きものを育む理由

里地里山は、人間の生活と生産活動を通じて形成された、モザイク的な土地利用（空間）により構成されている

土地利用の例

コナラ林、アカマツ林、水田、ススキ草原、ため池等



幼生の時代は水中で暮らし、成長すると林や草原で暮らすトンボやカエル

森林に営巣し、餌は草原や水田で捕るオオタカなどの猛禽類

にとって、最適な生息場所



人と自然が元気な郷づくり（その2）

里地里山と人びとの生活の関わり

伝統的知恵の継承



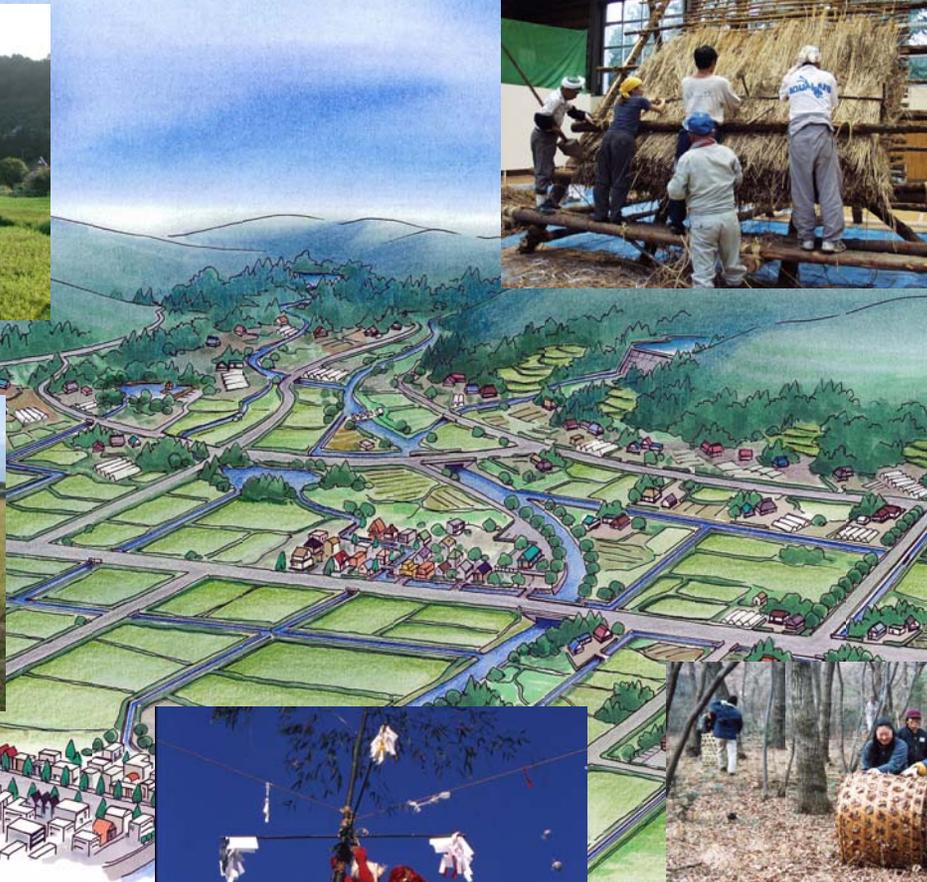
居住空間



林産物生産



農産物生産



生活文化・地域社会



自然体験・生産体験



人と自然が元気な郷づくり（その3）

背景

人口減少・高齢化
生活様式の変化
国産農林水産物の利用減少

森林

林業・山村の活力低下により間伐等の施業が十分実施できないこと等による公益的機能の低下が懸念

鳥獣被害の増加 <被害金額187億円>

里地里山

農村の過疎化・高齢化、担い手の減少による、耕作放棄地の増加・里山等農林業を通じてつくられる特有の自然環境の荒廃

<耕作放棄38万ha>

農薬・肥料の不適切な使用など、農業生産活動等による多様な動植物の生息環境の減少

里海

水質の悪化や藻場・干潟の減少による豊かな海の喪失

海洋

過剰漁獲による資源の減少、海鳥等の混獲など

海外

輸入に依存する食糧・木材・水産物
(世界的な生物多様性は、種の多さ・絶滅危惧種の動向など、多くの指標で悪化している。)

重視する機能に応じた適正な整備と保全による、森林の多面的な機能の発揮

農業生産活動と生物多様性との調和に向けた環境に配慮した農林水産業への移行

・環境保全型農業の推進
・環境に配慮した基盤整備の推進

健全な農林水産業の営みと、国民の参加による農山漁村の特有の自然環境の維持

水産動植物の生育環境の保全、多面的機能の発揮

国内農林水産業の振興による自給率の向上

外来生物等への対応

農林水産業と生物多様性の関係の把握及び定量的な評価の検討・目指すべき姿の明確化

<生物多様性保全の観点から現状をどう評価するか>

・エコファーマー(11万人)
・食料自給率 40%、用材自給率 20%
・藻場・干潟は高度経済成長期に大幅に減少